

事項	大豆作付後の復元田における「つがるロマン」、「ゆめあかり」の施肥																										
ねらい	平成11年度から実施されている水田農業確立対策によって、「つがるロマン」や「ゆめあかり」の作付地域で、団地化やブロックローテーションの導入による大豆の栽培が増加している。大豆作付後の復元田における「つがるロマン」や「ゆめあかり」の施肥については、はっきりした指針がなかったが、4普及センターの調査結果を取りまとめ、施肥の目安を作成したのでその内容を参考に供する。																										
指導内容	<p>復元田では初年目から多収をねらわず、倒伏防止と安定確収、品質向上に重点をおく。そのため、基肥窒素、追肥の目安は以下のとおりとする。</p> <p>なお、基肥の減肥は、砂質土、黒ボク土及び灰色低地土では少なめに、グライ土は多めにする。また、追肥の時期と量は、土壌条件や生育量及び葉色を見ながら、調整する。</p> <p>表 大豆作付後の復元田での「つがるロマン」の施肥基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基肥（減肥率）</th> <th>追肥（10a当たり窒素量）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>復元初年目</td> <td>100%</td> <td>0 kg</td> </tr> <tr> <td>復元2年目</td> <td>40～50%程度</td> <td>1～2 kg程度</td> </tr> <tr> <td>復元3年目以降</td> <td colspan="2">慣行どおり</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 大豆作付後の復元田での「ゆめあかり」の施肥基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基肥（減肥率）</th> <th>追肥（10a当たり窒素量）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>復元初年目</td> <td>80～100%程度</td> <td>0～2 kg程度</td> </tr> <tr> <td>復元2年目</td> <td>30～40%程度</td> <td>2～3 kg程度</td> </tr> <tr> <td>復元3年目以降</td> <td colspan="2">慣行どおり</td> </tr> </tbody> </table>			項目	基肥（減肥率）	追肥（10a当たり窒素量）	復元初年目	100%	0 kg	復元2年目	40～50%程度	1～2 kg程度	復元3年目以降	慣行どおり		項目	基肥（減肥率）	追肥（10a当たり窒素量）	復元初年目	80～100%程度	0～2 kg程度	復元2年目	30～40%程度	2～3 kg程度	復元3年目以降	慣行どおり	
項目	基肥（減肥率）	追肥（10a当たり窒素量）																									
復元初年目	100%	0 kg																									
復元2年目	40～50%程度	1～2 kg程度																									
復元3年目以降	慣行どおり																										
項目	基肥（減肥率）	追肥（10a当たり窒素量）																									
復元初年目	80～100%程度	0～2 kg程度																									
復元2年目	30～40%程度	2～3 kg程度																									
復元3年目以降	慣行どおり																										
期待される効果	大豆作付後の復元田で「つがるロマン」や「ゆめあかり」を栽培する場合の指針となる。																										
利用上の注意事項	<p>1 土壌の種類や転換畑期間の長短、乾土効果等によって土壌窒素の発現が異なるので、復元初年目はできるだけ「ゆめあかり」等耐倒伏性が強い品種を作付けし、倒伏が懸念される場合には倒伏軽減剤を使用する。</p> <p>2 土壌改良、耕うん及び代かき整地、田植え及び水管理、雑草防除、病害虫防除については稲作指導要領（189～195p）を参考にする。</p>																										
担当	青森県農業研究推進センター 普及指導室 中南地方農林水産事務所黒石地域農業改良普及センター 中南地方農林水産事務所平賀地域農業改良普及センター 北地方農林水産事務所五所川原地域農業改良普及センター 西地方農林水産事務所木造地域農業改良普及センター	対象地域	「つがるロマン」、 「ゆめあかり」の 栽培地域																								
発表文献等	平成12～14年度 「水稻調査研究成績書」（水稻津軽地域研究会、県南稲作研究会）																										

【根拠となった主要な試験結果】

表1 復元田における「つがるロマン」の生育等

(平成13～14年 黒石、平賀、五所川原、木造農改)

復元年数	年次場所	区名	窒素施肥量 (kg/10a)	倒伏軽減剤	7月15日			出穂期 (月日)	成熟期の			玄米重 (kg/10a)	検査等級	倒伏程度
					草丈 (cm)	m ² 当茎数 (本)	葉色値		稈長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 当穂数 (本)			
1年	H13 藤崎	大豆2作	4.0+0.0	無	72.4	590	43.4	8/9	92.3	18.8	428	563	-	4.5
		水稻連作	6.2+2.0	無	67.0	615	38.2	8/8	87.5	18.2	396	625	-	0.4
	H13 柏	大豆3作	1.0+0.0	無	69.1	505	46.0	8/12	87.0	18.1	459	634	1	3.0
		水稻連作	4.8+2.3	無	70.9	435	42.9	8/9	95.9	19.8	417	709	1	5.0
	H13 平賀	大豆1作	0.0+2.0	無	65.7	456	-	8/4	86.8	19.3	389	668	1中	1.0
		水稻連作	0.0+0.0	無	67.0	452	-	8/5	88.1	18.9	395	616	1中	0.0
H13 平賀	水稻連作	5.0+3.0	無	65.6	569	-	8/3	86.9	19.7	498	629	1中	4.0	
	H14 尾上	大豆2作	0.0+0.0	無	57.6	580	-	8/8	86.5	18.0	369	631	1	1.0
水稻連作		5.5+2.0	無	59.0	694	-	8/5	84.1	18.7	445	633	1	1.0	
H14 田舎館	大豆2作	0.0+0.0	無	60.0	776	37.8	8/9	88.9	17.2	543	699	1中	0.5	
	水稻連作	0.0+0.0	有	61.9	581	41.3	8/8	87.7	17.0	413	691	1中	0.0	
	水稻連作	5.7+1.9	無	57.1	557	37.8	8/7	85.9	18.0	349	598	1下	0.4	
2年	H14 板柳	大豆2作	3.2+2+1.5	無	51.1	492	-	8/9	86.7	19.6	428	533	1中	1.0
		水稻連作	5.0+3.0	無	52.8	619	-	8/9	86.3	18.2	414	558	1中	1.0

(注) 1 復元年数は、大豆を作付後水稻に復元した後の年数を、区名の大豆2作、大豆3作は復元前の大豆の作付年数

2 大豆作付田の土壌は、藤崎、柏がグライ土、平賀が灰色低地土、尾上が多湿黒ボク土、田舎館が砂質土、板柳が細粒グライ土

3 H14田舎館の倒伏軽減剤は、7月21日(出穂18日前)にスマレクト粒剤を10a当たり3kg散布

4 H14田舎館倒伏軽減剤無は十二川原地域、倒伏軽減剤有は八反田地域で、試験場所が異なる

5 H14田舎館水稻連作は、管内6か所の平均、葉色値はSPAD-502による測定値

表2 復元田における「ゆめあかり」の生育等

(平成12～13年 五所川原農改)

復元年数	年次場所	区名	窒素施肥量 (kg/10a)	倒伏軽減剤	7月15日			出穂期 (月日)	成熟期の			玄米重 (kg/10a)	検査等級	倒伏程度
					草丈 (cm)	m ² 当茎数 (本)	葉色値		稈長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 当穂数 (本)			
1年	H12 板柳	大豆2作	1.0+0.0	無	56.6	405	39.3	8/3	74.3	18.3	367	524	1中	1.0
		水稻連作	0.65+0.0	無	59.6	407	37.5	8/3	75.1	18.4	347	563	1中	1.0
		水稻連作	0.0+0.0	無	55.1	380	42.6	8/5	72.1	18.7	290	593	1中	1.0
	H13 板柳	大豆3作	0.0+0.8	有	68.8	615	-	8/16	88.8	19.4	502	566	1中	3.0
		水稻連作	5.0+3.0	無	67.0	696	-	8/9	82.0	18.3	497	721	1中	1.0

(注) 1 H13板柳の倒伏軽減剤は、7月25日(出穂22日前)にスマレクト粒剤を10a当たり3kg散布

2 板柳の土壌は細粒グライ土